

普及活動現地情報

「農業現場では、今」

令和2年1月号



【海草振興局】1/28 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】
～「蔵出しみかん」蔵の見学会を開催～

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。



< 目 次 >

頁数

I 海草振興局	1 - 2
1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】 ～「蔵出しみかん」蔵の見学会を開催～	
2. 和海地方新規就農者研修（野菜コース）を開催	
3. 海草地域のクビアカツヤカミキリムシ調査を実施	
II 那賀振興局	3
1. 岩出市内の中学校で郷土食体験を実施	
III 伊都振興局	4 - 6
1. クビアカツヤカミキリ対策研修会を開催	
2. 伊都地方土づくり研修会を開催	
3. 伊都地方農業士連絡協議会経営事例研修会を開催	
IV 有田振興局	7 - 8
1. 有田地方青年農業者会議並びに土づくり研修を開催	
2. 有田地方農業士協議会女性部会研修会を開催	
V 日高振興局	9 - 12
1. 第33回地域農業を考える日高のつどいを開催	
2. 日高地方「花き品評会」、「花き展示会」を開催	
3. 日高地方青年農業者会議を開催	
4. 由良町農山漁村女性の日交流会を開催	
5. 印南小学校で食育教室を実施	

VI 西牟婁振興局 **13-14**

1. 西牟婁地方農業士会連絡協議会女性部会が先進地研修を開催！
2. 川添緑茶研究会が新春初もみ会と初もみ茶を楽しむ会を開催！

VII 東牟婁振興局 **15-16**

1. 三津ノ地域活性化協議会が第2回粃殻堆肥づくり研修会を開催
2. JA紀南さつまいも部会が「なんたん蜜姫」の栽培指針検討会を開催

VIII 農林大学校 就農支援センター **17**

1. 特別研修「産地（紀南）研修」を開催
2. 特別研修「新規就農セミナー」を開催

IX 経営支援課（農業革新支援センター） **18-20**

1. 近畿地域農業青年会議が和歌山県で開催されました
2. 和歌山県農業士会連絡協議会女性部会研修会、車座座談会を開催
3. むらとくらしを考える会議を開催

I 海草振興局

1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】 ～「蔵出しみかん」蔵の見学会を開催～

1月28日、農業水産振興課では下津みかん産地の魅力を発信することを目的に、JAながみねと連携して報道機関向けの「蔵出しみかん」蔵の見学会を開催した。当日は報道機関4社から記者の参加があり、はじめにJAながみねしもつ営農生活センター会議室において、JA担当職員から下津みかんの概要や日本農業遺産認定、今年産の作柄等について、農業水産振興課から産地の現状や課題、昨年から取り組んでいる重点プロジェクトの活動内容等について説明を行った。その後、重点プロジェクトの指導対象となっているJAながみねしもつ柑橘部会役員の貯蔵蔵を見学し、みかんの貯蔵状況や貯蔵に係る注意点について管理する農家から説明を受けた。また、みかん蔵の見学後には蔵出しみかんの出荷規格や出荷先、下津地域における新規就農者や農繁期の労働力確保状況等について意見交換を行い、記者の方々に下津みかん産地の現状や課題等について認識を深めていただいた。

当課では、今後も関係機関や農業者と連携しながら定期的の下津みかん産地をPRする取組を実施して産地の魅力を発信していきたいと考えている。



概要説明



意見交換

2. 和歌地方新規就農者研修（野菜コース）を開催

1月21日、就農1～5年目の新規就農者および、イチゴ栽培希望者を対象に新規就農者研修（野菜コース）を実施した。当日は、イチゴ栽培を行っている6名の参加があった。最近、品目転向などでイチゴ栽培を開始する方が多いため、研修のテーマとして取り上げた。また、参加者同士のつながりを作る目的もあった。

岩出市のイチゴ農家である中村弘氏に講師をお願いし、イチゴ栽培の年間スケジュールやポイントとなることを説明してもらい、参加者は高設栽培、土耕栽培それぞれのハウスを見学した。手探りでイチゴ栽培を始めた参加者が多く、実際に栽培していることもあり、質問が多くなされた。「うどんこ病に悩まされている」、「灰色かび病の実を摘んでいくとほぼ実

がなくなった」といった声に対し、中村氏は「イチゴの病気は予防が肝心。育苗段階で病気を出さないことも重要」、「ダニにも注意しなくてはいけない。天敵を利用している」とアドバイスをしていた。

研修終了後、参加者らは今後、お互いに栽培状況の情報交換するように連絡先を交換した。農業水産振興課は来年度も新規就農者のサポートを行っていく。



栽培のポイントを話す中村氏



土耕栽培の見学

3. 海草地域のクビアカツヤカミキリムシ調査を実施

クビアカツヤカミキリムシは主にバラ科の樹木を好んで樹内を加害する。幼虫は、樹木内を食い尽くし、最終的に枯死させてしまう。昨年11月19日、かつらぎ町のモモ畑で本虫によるフラスが発見されたことから、県内のモモ、ウメ、スモモの主要産地において、発生状況の確認が迫られている。

このことから、1月9日、和歌山市山東地区のウメ、スモモ、モモ園計14か所、1月10日、海南市高津地区周辺、紀美野町長谷のウメ、スモモ、モモ園計12か所において、クビアカツヤカミキリムシの調査を行った。

調査は、JA、市役所、かき・もも研究所、JAグループ和歌山農業振興センターと協力し、園内の樹木の株元を見回り、フラスの発生状況を確認した。フラスがあった場合、その形状から別の虫によるものであることを確認し、発生が見受けられなかった。

今後、関係機関と協力して調査を継続し、農家への周知を行っていく。



クビアカツヤカミキリの雄成虫
(大阪市立自然史博物館提供)



朽ち木にあいた穴を確認する

Ⅱ 那賀振興局

1. 岩出市内の中学校で郷土食体験を実施

農業水産振興課では、昨年12月12日～13日に岩出中学校2年生7クラス220名、1月22日～23日に岩出第二中学校2年生7クラス247名を対象とした郷土食体験を実施した。

この取り組みは、生徒達が地域農業や郷土料理について理解を深めることを目的に行っており、実習では地域に伝わる「お雑煮」と岩出市特産のなばなを使った「ごまあえ」を調理した。

当日は、普及指導員と岩出市生活研究グループ協議会（福田清子会長）の会員が講師となり、会員72名（4日間の延べ人数）が指導を行った。

材料のうち、青味大根、金時人参、里芋、なばな、餅、味噌は会員が作った物を使用した。

講師からは「その年を円満に過ごせるようにとの願いを込めて、お雑煮に入れる大根、人参、里芋はすべて丸く切る」と説明があった。

実習後、生徒達からは「なばなが意外に硬くて戸惑ったが、ごまあえはすごく美味しかった」、「青味大根が知っている大根よりもずっと小さくて、びっくりした」といった感想が聞かれた。

当課では、今後も生活研究グループや農家と連携し食育活動を推進していく。



お雑煮となばなのごまあえ



材料について説明する福田会長



調理実習

Ⅲ 伊都振興局

1. クビアカツヤカミキリ対策研修会を開催

昨年の11月に、クビアカツヤカミキリの被害が本県で初めてかつらぎ町内のモモ園で確認された。

クビアカツヤカミキリはモモ・スモモ・ウメの樹を食害する害虫で、大発生すると本県のモモ・スモモ・ウメの生産に大きな被害が発生するおそれがある。

農業水産振興課では、伊都地方農業振興協議会果樹病虫害対策会議（市町、JA、農業共済、振興局で構成）と協力し、1月16日、17日にクビアカツヤカミキリ対策の研修会をかつらぎ町あじさいホールにおいて開催した。

研修会には、延べ321名の参加があり、かき・もも研究所及び農業環境・鳥獣害対策室担当者からクビアカツヤカミキリの生態や、他産地の被害状況、被害樹に対する対策や支援策について説明をおこなった。

クビアカツヤカミキリの被害が拡大することを防ぐためには、被害樹を早期発見し、成虫の拡散、繁殖を防ぐように産地全体で取り組んでいくことが重要である。

当課では、関係機関や生産者と連携してクビアカツヤカミキリの対策に取り組んでいく。



クビアカツヤカミキリの被害樹



クビアカツヤカミキリ対策研修会

2. 伊都地方土づくり研修会を開催

1月20日に、エコファーマーや環境保全型農業への関心が高い農業者、就農して5年以内の新規就農者などを対象に土づくり研修会を開催した。

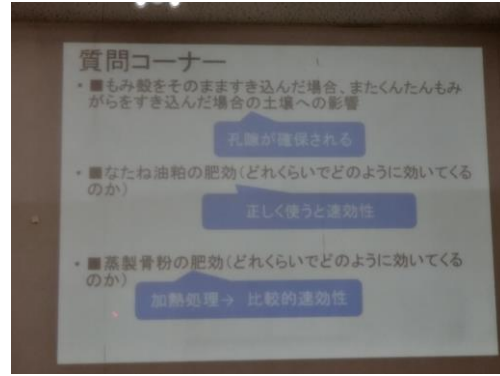
研修会には24名が参加し、NPO法人DGC基礎研究所代表理事内山知二氏から、土の物理性や理化学性、その改善方法、土壌診断結果の読み方について講演をいただいた。

また、参加者から事前に受け付けた質問への回答もあり、参加者らは熱心に耳を傾け、土壌についての知識を深めた。

農業水産振興課では、今後も研修会の開催等により土づくりの技術の普及に取り組んでいく。



研修



事前に提出した質問

3. 伊都地方農業士連絡協議会経営事例研修会を開催

1月22日、橋本市民会館ギャラリーにおいて、伊都地方農業士連絡協議会（森口佳幸会長）主催の経営事例研修会が開催され、農業士、新規就農者、市町等の関係者ら36名が出席した。

研修会では、小松普及指導員から「再任用の5年間を振り返って」と題して、当課で取り組んできた伊都地方の農業士会活動などの報告に続き、指導農業士の坂口佳弘氏（橋本市）、玉置恵子氏（九度山町）、辻重光氏（かつらぎ町）の3名から自身の経営概要、今後の経営方針等について発表した。

坂口氏は34歳で就農。現在、果樹から主に野菜栽培に転換、露地野菜では手間のかからない種類15品目を栽培、施設ではメロンを栽培し「やっちゃん広場でお盆の供え物や贈答用として人気です。」との話があった。

玉置氏は、出産を機に会社を退職して就農。当初は柿・八朔・米の複合経営であったが、南東向きの地形と土壌条件を活かして柿専作経営に移行、味にこだわり樹上で十分に着色させてから収穫しているとの話があった。

辻氏は、24歳で就農。29歳の時に他界した父の遺志を継ぎ甘柿「新秋」のハウス栽培を開始、「温室新秋柿」として平成21年にプレミア和歌山（優良県産品推奨制度）に認定されている。また、平成15年頃から柿加工施設を整備し、干し柿「柿ひとえ」など5品を商品化している。今後は、柿への偏重から脱却するため、ブドウ「シャインマスカット」の試作を始めているとの話があった。

続いて、森口会長の進行で発表者3名と出席者との意見交換をおこない、出席者から「雇用を確保する工夫は？」、「年中多忙な中、モチベーションを維持するには？」等の質疑が交わされた。

今後も農業士と若手農業者との交流を盛んにし、本協議会が新規就農者への指導や農業振興に対する提言等で地域活性化に一役を担えるように本協議会の活動支援に取り組んでいく。



発表者との意見交換



質問する新規就農者

IV 有田振興局

1. 有田地方青年農業者会議並びに土づくり研修を開催

1月22日、果樹試験場大会議室にて「令和元年度有田地方青年農業者会議」を開催し、管内の4Hクラブ員や関係者ら合わせて27名が参加した。本会議は、クラブ員が日頃の研究成果や経営内容を発表し、当面する問題の解決方法や発展方向を見だし、地域農業発展に寄与するとともに、クラブ員の資質向上と相互交流を図ることを目的に開催している。

本年度は、有田市4Hクラブの橋爪裕介氏、湯浅町4Hクラブの畑篤志氏、南広4Hクラブの石川裕基氏、有田川町4Hクラブの林孝憲氏の4名がプロジェクト発表を行った。発表者は、緊張しながらも自信を持って発表し、審査員からの質問にも的確に回答していた。

審査の結果、「一人でも出来る高品質安定生産を目指して」を発表した橋爪氏が最優秀賞に選出された。なお、4名は「県青年農業者会議」においても発表をする予定である。

また、発表終了後には、土づくり研修を実施し、NPO法人DGC基礎研究所 代表理事内山知二氏より「樹園地の土づくり」と題して講義を受けた。大阪府環境農林水産総合研究所での経験に基づく、論理的で現場に役立つ土壌の性質、堆肥や肥料の説明にクラブ員らは熱心に聴講していた。



プロジェクト発表



土づくり研修会

2. 有田地方農業士協議会女性部会研修会を開催

1月30日、有田振興局において、有田地方農業士協議会女性部会（藤岡良子部会長）研修会を開催し、7名が出席した。

今回の研修では、元指導農業士の山本美智和氏（広川町）を講師に招き、新たな花の活用方法としてフラワーアレンジメント講習を行った。

初めてアレンジをする部会員もいたが、それぞれ思い思いのアレンジが完成した。

その後の意見交換会では、農業士として地域で期待することや意義について、山本氏の経験をもとに活発な情報交換が行われた。

農業水産振興課では、他地域や若手の女性農業者との交流を深められるよう、引き続き、女性部会の活動支援を行っていく。



フラワーアレンジメント講習

V 日高振興局

1. 第33回地域農業を考える日高のつどいを開催

日高地方の農業士会、生活研究グループ、4Hクラブで組織する地域農業を考える日高のつどい実行委員会（後藤明子会長）は、1月23日、日高町中央公民館において、「熱意を変えな！令和につなげる日高の農業」をテーマに地域農業を考える日高のつどいを開催した。同大会は、農業者自身がこれからの地域農業のあり方について考え、地域づくりの取り組みに資するため昭和62年から毎年開催されており、33回目となる今回は会員、関係者等138人が参加した。

講演1部では、農事組合法人古座川ゆず平井の里の倉岡有美常務理事から「柚子の香りに夢のせて」と題し講演があった。同法人は、平成19年豊かなむらづくり全国表彰事業コンクールにおいて内閣総理大臣賞を受賞しているが、その後の取組についてお話があり、試行錯誤の連続ではあるが、周辺地域とも連携した地域づくりを継続することで、課題解決に取り組んでいるとのことであった。

講演第2部では、梅ボーイズのリーダーである山本将志郎氏から「梅の世界を変える集団梅ボーイズ」と題した講演があった。山本氏は、みなべ町の梅農家に生まれ、薬学を学ぶため大学に通い、就職の内定も受けていたが、梅を取り巻く現状に危機感を持ち、梅干の研究と販売を行う会社を設立し、兄が作る梅干を持って日本中で販売活動を行っている。やり方次第では、梅はまだまだ伸びることを確信しているとのことであった。

講演1部、2部を通じ、取組に違いはあれど「熱意を持ち続け、行動を起こす」という事例に触れた参加者からは、「ご苦労とご努力が伝わってきた」、「若い視点とその行動力がすごい」との声が聞かれた。



倉岡氏の講演を熱心に聞く参加者



講演する山本氏

2. 日高地方「花き品評会」、「花き展示会」を開催

日高地方花き連合会（池田晃会長）は、1月24日、JA紀州がいなポートで「花き品評会」、翌25日に御坊市立体育館で「花き展示会」を開催した。

今回で第4回となり、「花き品評会」には、前回は上まわる89点の切り花や切り枝が出品された。審査の結果、菊地勝氏（御坊市）のダリア「ガーネット」と前田吉一氏（御坊市）のスターチス「タスマニアオレンジ」が最高の金賞、中野節子氏（日高川町）のシキミが特別賞を受賞したほか、銀賞5点、銅賞7点が選ばれた。記録的な暖冬の下で育てられた出品物に低温障害はほとんど見られず、品質の拮抗した品評会となった。

「花き展示会」には、品評会の入賞品を中心に日高地方の代表的な花き30点を展示した。今回は、JA紀州女性会の「くのいちフェスティバル」に参加する形で実施したことで、多くの女性客に日高地方が全国有数の花の産地であることをPRできた。併せて、花き連合会の活動紹介、「母の日参り」や「フラワーバレンタイン」等の花き消費拡大の啓発も行った。会員らは来場者とのふれあいを通して作り手としての自覚を新たにしていた。



金賞を受賞した前田氏（左）と菊地氏（右）



日高の花でひと足早い春を提供

3. 日高地方青年農業者会議を開催

1月29日、印南町公民館大ホールにおいて、日高地方4Hクラブ連絡協議会（堀昇平会長）と日高振興局農林水産振興部の共催で、令和元年度日高地方青年農業者会議を開催した。日高地方の各市町4Hクラブがプロジェクト活動として1年にわたる取組をまとめ、発表・議論し、新しい農業および農村づくりに役立てようと毎年実施している。

今回は、発表順に印南町、御坊市、みなべ梅郷の3クラブから、プロジェクト発表がなされた。印南町4Hクラブは「印南の農業をつなげたい！～印南町4Hクラブの挑戦2～」と題し、プロジェクト2年目の活動として、地元の中学生にカーネーションの収穫体験やアンケート調査を経て、職業としての地域農業への興味を引き出す取組について発表した。続いて、御坊市4Hクラブは「ピーマンうどんこ病防除における微生物農薬の実用性検討」と題し、栽培期間の長いピーマン栽培において使用回数制限のない微生物農薬の有効性や実用性の実証試験を行った取組を発表した。最後に、みなべ梅郷クラブは「うめ産地を救う！？伐採班の活動」と題し、アンケート調査に基づく耕作放棄地や後継者対策に係る梅樹の伐採請負と備長炭の材料であるウバメガシの植樹を通じた保全活動に関する取組について発表し

た。

発表後、審査員（普及指導協力委員、南部高校教諭、農林大学校就農支援センター職員、日高振興局農業水産振興課長）から、目的や成果、今後の展望等についての質問がなされ、熱心な議論がなされた。いずれの発表も興味深い内容ばかりで審査員からの評価は非常に高く、地域の課題解決に引き続き取り組んでもらいたいと講評がなされた。審査の結果、みなべ梅郷クラブ山本宗一郎氏の発表が最優秀賞を受賞した。

また、発表後には、うめ研究所の柏本研究員より、「病害虫における薬剤抵抗性の獲得機構とローテーション散布による対策について」に関する研修会が行われた。

今回発表した3クラブは、2月14日にきびドーム（有田川町）で開催される県青年農業者会議でも再び発表を行い、好成績を目指す。



発表



各クラブの発表者

4. 由良町農山漁村女性の日交流会を開催

由良町内の農業士会と生活研究グループ、J A紀州女性会、紀州日高漁協女性部等で組織する由良町農山漁村女性の日推進会（片山綾子会長）は、1月15日、由良町中央公民館で同女性の日交流会を開催し、会員約50名が参加した。

同推進会は、会員相互の交流と知識の向上のため、毎年交流会を開催している。

今回は、会員の防災意識を高めるため、県の「出張！減災教室」の体験メニューから避難所運営ゲーム「HUG（ハグ）」を体験することになった。

最初に、由良町総務政策課の工徳勇人副主査から津波ハザードマップやため池マップ、土砂災害の危険箇所、避難所等の説明があった。その後、株式会社貴志の担当者から避難所運営ゲームの進め方やルールの説明を聞いた後、会員らは6グループに分かれて体験した。会員は、避難者を体育館や教室に適切に誘導したり、避難所で起こる様々な出来事に対応するため、皆で話し合いながら進めた。会員からは、「災害が起きたら、自分の命を守るためにどうすればよいのか考えるきっかけになった」、「このゲームを通して避難所の運営は、住民が考え、行動することが必要だと感じた」などの声があったことから、防災意識が高まったようだ。



株式会社貴志の担当者から説明



避難所運営ゲームを体験する会員

5. 印南小学校で食育教室を実施

1月24日、印南町立印南小学校の家庭科クラブと和風クラブの児童24人が町の特産物であるミニトマトとウスイエンドウを使って大福を作った。

講師は、明日を考える会代表の小田美津子氏と島本加奈子氏が務め、小田氏から大福の作り方を聞いた後、各自ミニトマトを白あんで包んで丸め、白玉粉に砂糖と水を入れ、電子レンジで温めて作った生地であんを包んだ。ウスイエンドウは、サヤから実を取り出し、塩ゆでしたら、生地に混ぜて丸めた小豆あんを包んだ。出来上がった大福と前もって作っておいたウスイのゴマ豆腐を、皆で試食した。

児童からは、「あんが手にひっついて丸めにくかった」、「ミニトマトと白あんが合っていて美味しかった」、「ミニトマトは嫌いだったけど、大福にしたら食べれた」なども声があり、好評であった。



ウスイエンドウのサヤから実を取り出す



ミニトマトを白あんで包む



生地であんを包む



2種類の大福とウスイのゴマ豆腐

VI 西牟婁振興局

1. 西牟婁地方農業士会連絡協議会女性部会が先進地研修を開催！

西牟婁地方農業士会連絡協議会女性部会（橋坂佐都美部会長）は、1月16日、橋本市生活研究グループの活動と和歌山県工業技術センターの加工品開発の取り組みについて先進地研修を実施し、女性部会員11名と農業水産振興課職員2名が参加した。

橋本市生活研究グループの水落副会長から、これまでの活動内容等について説明を受けたあと、グループ会員による指導で「ごま豆腐」と「柿の葉ずし」づくりに挑戦した。また、手作りしたごま豆腐や柿みかんジャムを試食しながら意見交換を行った。

和歌山県工業技術センターでは、食品開発部 前田部長からセンターの概要や加工品開発の取り組み状況について説明を聞いた後、同センター研究員から実験室内の設備機器の利用状況や研究成果について説明を受けた。

参加した部会員からは、「ごま豆腐がこんなに手軽に美味しく出来るとは思わなかった。家でも早速作りたい」、「柿の葉ずしは大きい柿の葉を手に入れるのは大変だが、作るのに便利な道具も教えてもらったので挑戦したい」、「工業技術センターでは、加工品開発以外にも様々な研究がされていて大変勉強になった」などの感想があった。

今回の研修会では各自研鑽を図るとともに、会員相互に交流を深めることができ、今後の女性部会での取り組みに大いに参考となった。



橋本市生活研究グループ
水落副会長の講話



ごま豆腐を試食しての意見交換



食品開発部 前田部長からの説明



実験室内の設備機器の説明

2. 川添緑茶研究会が新春初もみ会と初もみ茶を楽しむ会を開催！

1月13日、川添緑茶研究会(上村誠会長)が、JA紀南市鹿野製茶工場と川添山村地域活性化支援センターで、手もみによる製茶体験とできたお茶を試飲するお茶会を開催した。毎年、広く参加者を募集しており、今年は白浜町立三舞中学校の生徒が初参加した他、京都や奈良からの県外参加者、関係者を含む老若男女45人が参加し煎茶に親しんだ。

初もみ会に使用する茶葉は、昨年5月に研究会会員が収穫後に蒸して冷凍保存した一番茶を使用した。3台の焙炉(ほいろ)と呼ばれる手もみ作業台に参加者が分かれ、研究会員の手ほどきを受けながら体験した。初めて体験する方が多く、柔らかくも力強い手の動きと長時間に及ぶ手もみ作業に悪戦苦闘しながら、約5時間半かけてもみあげた。茶葉をもむうちに形が徐々に針状へと変化する様子に、参加者らは驚きつつ楽しんでいた。

初もみ茶を楽しむ会には、井瀬白浜町長も参加し、各焙炉ごとに製茶した手もみの荒茶(仕上げ加工をする前の茶)と、地域おこし協力隊の福永光展氏が全国手もみ茶品評会で二等を受賞した貴重な茶を試飲した。

参加者はお湯の温度(50℃の冷まし湯と熱湯)やもみ手の違いが、茶の味を大きく変えたことに興味津々であった。特に、福永氏の手もみ茶を45℃の冷まし湯でじっくり淹れて試飲したところ、「出汁のような旨味が口いっぱいに広がって残り続ける」、「お茶に対する認識が変わった」など、自分たちの手もみ茶とはうま味の奥深さに大きな違いがあることに驚きと感動の声があがった。

当研究会では、手もみ体験やお茶会を通して、参加者にお茶を楽しみ、より興味を持ってもらえるように活動しており、当課では今後もこの活動を支援していく。



手もみ技術の手ほどきを受ける参加者



煎茶に魅了された参加者

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 三津ノ地域活性化協議会が第2回籾殻堆肥づくり研修会を開催

1月11日、三津ノ地域活性化協議会（下阪殖保会長）は、アグリジイティ株式会社の田村英昭氏、田村智広氏を講師に招き、第2回籾殻堆肥づくり研修会を開催した。

三津ノ地域は水稻の栽培が多く、籾殻が多量に発生する。その籾殻の活用方法を学ぶため、12月19日に引き続き研修会を開催した。研修会には同協議会員の他、地元農家、JAみくまの及び農業水産振興課職員合わせて15名が参加した。

研修会では、田村氏から健康な土づくりや堆肥の発酵程度と温度の関係、堆肥の切り返し作業等について説明があった。参加者も作業に加わり、堆肥の切り返し方法について学んだ。

今回は、堆肥が適度に混ざるようにスコップで切り返し、灌水して水を含ませて再び積み上げる工程を行った。今後、およそ20日後に最後の切り返しを行い、40日程度で堆肥ができる予定である。

研修会は切り返しのタイミングと完成時点のあと2回行われる予定で、次回は2月7日に籾殻堆肥の座学と堆肥切り返しの実演研修を予定している。

完成した堆肥は、同協議会が洪水被害を受けにくい新規野菜の導入に向け設置しているモデル園で活用する。当課では今後も同協議会の活動を支援していく。



堆肥の発酵状態の説明



切り返し前の堆肥

2. JA紀南さつまいも部会が「なんたん蜜姫」の栽培指針検討会を開催

1月15日、JA紀南さつまいも部会（尾崎謙二会長）は、JA紀南串本支所において、「なんたん蜜姫」の栽培指針検討会を開催した。当日は生産者の代表6名の他、JA紀南及び農業水産振興課職員合わせて8名が参加した。

今回の検討会では、土壌改良材や農薬の現地試験の結果、生産現場からの要望等を踏まえて栽培指針を検討した。

最初にJA紀南の田中営農指導員と当課の堺普及指導員から変更案について説明があり、現地圃場では、pHの高い圃場が多いことから、石灰資材の量を削減することや、効果の高

かったコガネムシ対策の農薬を記載する案について参加者で意見交換した。

生産者からは、「収穫後の貯蔵方法について具体的な方法を追記してほしい」という要望があり、収穫後の管理を追記することや、植え付け労力の分散を図るため、植え付け開始時期を2週間程度早める栽培スケジュール案などについて話し合った。

作成した栽培指針については、2月の栽培技術研修会にて生産者に説明予定である。

当課では、今後も同さつまいも部会の活動を支援していく。



栽培指針検討会

Ⅷ 農林大学校 就農支援センター

1. 特別研修「産地（紀南）研修」を開催

1月16日、花き・野菜・果樹の各産地を視察する特別研修「産地（紀南）研修」を開催した。視察先として、御坊市名田町上野でスターチスを栽培している齋藤喜也氏、印南町山口でミニトマト栽培をしている大谷佳弘氏、田辺市の秋津野直売所「きてら」、田辺市上秋津で中晩柑を栽培している木村則夫氏を訪ねた。特別研修には社会人課程および技術修得研修の研修生計12名が参加した。

研修生は各訪問先の農家からスターチス、ミニトマト、中晩柑などの栽培技術や生産状況や農産物の加工、経営、販売法について説明を受けながら、和歌山県内の花き・野菜・果樹産地の概況について理解を深めた。

研修生らは「今後の自らの農業経営の参考にしたい」と、熱心に説明を聞き、多くの質問をしていた。



ミニトマト栽培施設の見学



農産物加工の説明を受ける研修生

2. 特別研修「新規就農セミナー」を開催

1月30日、就農支援センターで研修を修了し就農した和歌山市で有機栽培に取り組む吉川誠人氏、上富田町でミニトマト栽培に取り組む小野博氏を講師に迎え、研修館で新規就農セミナーを開催した。セミナーには社会人課程および技術修得研修の研修生計9名が参加した。講師から、ハウス建設時の資金調達などの苦労話やアドバイス、現在の状況などについて講話があった後、質疑応答が行われた。参加者からは「就農するまでに必要な準備や心構えについて知ることができてよかった」との声が多数聞かれた。



体験談を熱心に聴講する研修生



質疑応答

IX 経営支援課（農業革新支援センター）

1. 近畿地域農業青年会議が和歌山県で開催されました

1月14日、標記会議が近畿農業青年クラブ連絡協議会、和歌山県4Hクラブ連絡協議会（両会とも山本秀平会長）の主催、近畿農政局、県の協力のもと、JAビル（和歌山市）で開催され、近畿各府県の青年農業者や府県関係者ら約150名が参加した。

本会議は、日頃の活動で得た知識や技術を相互に交換し、資質向上と交流を図ることを目的に開催しており、当日は、各府県代表者から日頃の調査研究活動や自らの経営の成果、目標等について10課題の発表があった。当県からは和歌山地方4Hクラブ連絡協議会の前山明日規氏が「#これはもうみかん映え」と題してプロジェクト発表を行った。

審査の結果、プロジェクト発表部門で近畿農政局長賞に滋賀県の弓削田信基氏が、近畿農業青年クラブ会長賞に兵庫県の上岡昇平氏が選ばれた。また、意見発表部門では近畿農政局長賞に滋賀県の野田剛氏が、近畿農業青年クラブ会長賞に兵庫県の音瀬陽一氏が選ばれた。

なお、弓削田氏、上岡氏及び野田氏は、令和2年2月に開催される第59回全国青年農業者会議で近畿ブロック代表として発表する予定である。

また、「農家が発信すること」と題して、PODCAST（インターネットラジオ）「ノウカノタネ」代表の鶴田祐一郎氏から講演があり、農業者が情報発信することの意義や発信方法について説明があった。他に、情報交換会も行われ、参加者は積極的に情報や意見を交換し、交流を深めた。



プロジェクト発表 県代表 前山氏

2. 和歌山県農業士会連絡協議会女性部会研修会、車座座談会を開催

1月20日、和歌山県農業士会連絡協議会女性部会（吉本久美部会長）では、わかやま農業経営サポートセンター（主催）、（一社）和歌山県植物防疫協会（共催）と連携して、和歌山県自治会館で「第2回経営発展セミナー」を開催した。

第1部の講演会では、県内から65名の参加者があり、うち県農業士会連絡協議会女性農業士部会員25名も出席した。

第1部では、近畿農政局生産部生産技術環境課資材対策係長 空田氏から「GAPをめぐる情勢」として情報提供があった後、「地域が主役！人と地域を繋げる6次産業化と商品開発」として、ブランドストーリー代表の大平恭子氏が講演を行った。

大平講師からは、消費者に向けた「売り方、伝え方」、「商品の魅力的な訴え方」、SNSを使った消費者との繋がりなどについて講演があり、今まで携わった仕事の実例なども交え

ながら、6次産業化に取り組む考え方、目標設定の方法などについて紹介があった。

第2部の車座座談会では、大平講師にも加わっていただき、県農業士会連絡協議会女性部会員で、情報交換を行った。

情報交換では、「台風被害に遭った農作物をどのように販売したら良いか」、「後継者に経営を引き継ぐ際に、どのようなことを心がけているか」、「労働力をどのように確保しているか」など、幅広く会員で情報交換が行われました。

経営支援課では、今後も和歌山県農業士会連絡協議会の会員相互の交流やの経営技術向上等の取組を支援していく。



座談会参加者と大平講師（中央）



第1部：大平氏による講演



第2部：車座座談会での吉本会長挨拶

3. むらとくらしを考える会議を開催

1月28日、県は県生活研究グループ連絡協議会（宮地スミ子会長）と共催で「むらとくらしを考える会議」を県自治会館（和歌山市）で開催した。当日は、「食の開発と都市との交流～女性が導く地域活性～」をテーマに活動事例発表や講演があり、約160名が出席した。

会議の冒頭、令和元年度女性、高齢者グループの生活・生産に関する表彰式を行い、地域の活性化に貢献したげんき大崎（海南市）、あらぎ島景観保全保存会（有田川町）をはじめとする7グループ（知事賞3グループ、農林水産部長賞4グループ）を表彰した。

活動事例発表では、平成27年度に上記表彰で知事賞を受賞した真田いこい茶屋（九度山町）から、古民家を活用した物産販売所兼休息所の運営、「おもてなし弁当」の販売、食育の取組について紹介があった。発表者の坂上京子氏は、「旅行会社等からのおもてなし弁当の受注、高齢者世帯への配食サービスの開発を進めたい」と抱負を語った。

また今年度に近畿農政局男女共同参画優良事例で表彰された有田川町生活研究グループ連絡協議会清水支部長の横岩史氏が、山椒を活用した加工品の開発、販売、食育活動およびメディアへのPR等の活動について紹介した。横岩氏は「今後はさらなる加工品開発、販路拡大、食育活動の充実を図っていきたい」と、目標を述べた。

午後からは、株式会社ふみこ農園代表取締役成戸文子氏から「女性ならではのもの作り・会社作り～商売は夢と情熱を持って～」と題して講演があり、和歌山県産の農産物を活用した商品開発へのこだわり、会社経営にあたっての苦労や楽しさについて話があった。他に、各地方から加工品や農産物の展示即売会も行われ、参加者は積極的に情報や意見を交換し、交流を深めていた。

これを契機に、農村女性の地域活性化活動のさらなる活性化につながることを期待している。



活動事例発表

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489